

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立石田小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生1組 7名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間「明日にチャレンジ」） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○パラリンピック競技について調べ、障害のある人がスポーツを楽しんでいることを理解する。 ○パラリンピック選手との交流を通じ、体に障害のある人がどのように障害と向き合い、様々なことを乗り越えて今を生活しているのか、ということを知り、自分の生活に生かす。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 単元の導入として、オリンピックやパラリンピックの映像資料を見たり、歴史について学んだりした。 ・当日の学習 ① 北京パラリンピック車いすバスケットチームのコーチとして出場された坂野晴男さんと京都バスケットチームで活躍されている山本英嗣さん、八橋龍二さんをお迎えし、車いすバスケットボールの体験をさせていただいた。競技についての説明を聞いたり、選手の実技を見せていただいた後、実際に児童が車いすに乗り、操作させていただいた。その後、チームに分かれて、車いすバスケットボールの試合をした。少しずつ車いすの操作に慣れ、ボールを運んだり、シュートをする楽しさを味わったりすることができ、楽しんでゲームをしていた。全員が体験することができた。



② 教室に入り，選手の方から様々な体験談を聞かせていただいた。山本選手は，車いすを使うようになった経緯，その当時の思い，障がい者スポーツとの出会い，仕事内容，これからの人生設計における夢や目標，また，児童に考えてほしいこと等について，お話をしてくださった。八橋選手は，児童の質問に答えていただきながら，車いすバスケットをする上で，苦労したことや良かったことを教えていただいたり，困った時やうまくいかない時は，よく考えて，工夫したり苦労したりすることが大切であり，何事にも全力でがんばりながら楽しい人生を送ってほしい，というメッセージをいただいたりすることができた。



・事後学習

自分たちが体験したことや調べたことを通して，学習したことをまとめ，多くの人に知ってもらう機会を設けた。

6 主な成果

○この学習を通して，パラリンピック（障がい者スポーツに興味をもつようになり，ニュースなどで取り上げられると，児童から話題にするようになった。

○いろいろな立場の人が，共によりよく過ごすためには，自分たちはどんなことに気を付けていけばよいのか，ということをも自分のこととして考えることができるようになった。

○身体に障害がある人は，何もできなくてかわいそうな人，と思っている児童が多くいたが，自分たちと同じようにスポーツを楽しんだり，仕事に就いたり，趣味を謳歌したりしていることに気づくことができた。

7実践において工夫した点（事業の特色）

事前に，パラリンピックや障がい者の生活について調べ学習を行い，興味をもった状態で，本事業に臨むようにした。また，他教科とも関連付けながら，学びに系統性をもたせながら，単元を構築した。

8主な課題等	体験のみで終わることのないよう、学習のめあてをもち、事前学習や事後学習を進める必要がある。
9来年度以降の実施予定	児童にとってよい学びの機会と考えるので、継続して実施していきたい。